

# 第3回 羽島市幼保小連携推進協議会



令和5年6月27日(火)  
羽島市教育委員会 学校教育課

## 議題1 第1回幼保小連携に関わる調査の報告について

- (1) 結果と考察
- (2) 今後の方向

## 議題2 令和5年度の実組状況について

- (1) 各小学校区の実組
- (2) 市の実組

## 議題3 モデル小学校区の実組について

- (1) 開発会議、園・小学校、自治体の役割
- (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

# 議題Ⅰ 第Ⅰ回幼保小連携に関する調査の報告について

## (Ⅰ) 結果と考察

### アンケート調査（教職員用） 資料Ⅰ

- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」については、**小学校職員の理解**が深まっていない。(Q1)
- ・健康な心と体、自然との関わり・生命尊重、豊かな感性と表現が**30%以上の職員がよく育っている**と感じている。一方、道徳性・規範意識の芽生え、社会生活との関わりについては**10%の職員が課題である**と感じている。(Q3)

# 議題Ⅰ 第Ⅰ回幼保小連携に関する調査の報告について

## (Ⅰ) 結果と考察

### アンケート調査（教職員用） 資料Ⅰ

- ・小学校区において、お互いの**教育・保育を参観する機会**が少ない。(Q6,Q8)
- ・幼保小の教職員がお互いに**意見を交換したり、学びあう機会**が少ない。(Q7,Q9)

# 議題1 第1回幼保小連携に関する調査の報告について

## (1) 結果と考察

### アンケート調査（管理職用） 資料2

- ・園と小学校の職員が**協同**して、**接続期のカリキュラム作成**を行っている園・小学校は少ない。  
(Q1~Q4)
- ・半数以上の園・小学校で相互の**参観**は行われているが、**合同の研修会**は行われていない。  
(Q5, Q8, Q9)

# 議題Ⅰ 第Ⅰ回幼保小連携に関する調査の報告について

## (Ⅰ) 結果と考察

### アンケート調査（管理職用） 資料2

- ・ **園児と児童の交流**は、約4割程度の小学校・園で行われている。(Q7)
- ・ 幼児教育施設では、小学校と**連携する担当者**が明確になっていない。(Q10)

# 議題Ⅰ 第Ⅰ回幼保小連携に関する調査の報告について

## (Ⅰ) 結果と考察

### 実態調査（教職員用） 資料3

- ・園児にとって、**小学生との交流や小学校への訪問**は小学校への入学を円滑にすることにつながっている。
- ・**堀津小学校区**では、相互に園・学校を参観したり、子供の姿で交流したりできている。

# 議題Ⅰ 第Ⅰ回幼保小連携に関する調査の報告について

## (Ⅰ) 結果と考察

### 実態調査（管理職用） 資料3

- ・ **就学時の引継ぎ**の方法や内容に課題がある。
- ・ **特別支援教育についての共通理解**に課題がある。



## (2) 今後の方向

- ・各小学校区において、保育参観、授業参観、幼保小合同会議等を実施し、**お互いの教育・保育についての理解**を深めていく。
- ・幼保小連携担当者会において、**市の幼保小連携の課題を共有**する。
- ・小学校教員が**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**を視点として、**児童理解を深める**。

# 議題2 令和5年度の取組状況について

## (1) 各小学校区の取組み

### 正木小学校区（幼保小連絡協議会）

内 容：授業参観、意見交流

参加園：小学校区の園、西部幼稚園、発達支援センターもも  
(5/17)

その他の児童の出身園、まさき園 (6/6)



#### ◇授業参観における参観者の意見

- ・子供たちが楽しそうに学習している場面を見て安心した。
- ・名前を呼んで返事をしている場面があった。園でも大切にしたい。
- ・国語の濁点の授業では、絵本から濁点のつく言葉を探していた。子供たちは園で絵本に親しんでいるので、つながりを感じた。
- ・算数で数の学習をしていた。園でも、遊びの中で「いくつたりないかな」と言って数に興味をもたせられると感じた。

# 議題2 令和5年度の取組状況について

## (1) 各小学校区の取組み

### 正木小学校区（幼保小連絡協議会）

#### ◇意見交流

- ・**小学校の先生方の接し方が肯定的**で、落ち着いた雰囲気を感じた。
- ・園で**ひらがな**については、どこまで学習しているのか。（小学校）
  - 鉛筆をもつことに慣れるようにしている。
  - ひらがなのワークをやっているが、強制はせず自分のペースでやっている。
  - 自分の名前は読めるようにしようとしている。
- ・園では**集団づくり**のようなことはしているのか。（小学校）
  - グループを作って、リーダーを決めている。
  - 子供の思いを受け止めながら、集団の遊びをしている。
- ・**保護者に、小学校までにやっておく**ように伝えた方がいいことは何か（園）
  - 身の回りのことをできる、困っていることを言えるようにする 等

# 議題2 令和5年度の取組状況について

## (1) 各小学校区の取組み

### 堀津小学校区（幼保小連絡会）

内 容：授業参観、意見交流、児童についての情報交流

参加園：堀津保育園、中島保育園、はしま西幼稚園

#### ◇意見交流

- ・新しい環境に、卒園児が**馴染めていて安心**した。
- ・卒園児が挙手する姿が見られた。**園でも挙手するような場面**を大切にしていきたい。
- ・**遊び（しりとり）から、授業が構成**されてるのがよかった。しりとりでは、園でも子供たちがやっているので**つながり**を感じた。
- ・**文字を書く練習**は、園でもやっているが、一斉にやることを見直して、個人のペースでできるようにしている。



# 議題2 令和5年度の取組状況について

## (1) 各小学校区の取組み

### 堀津小学校区（幼保小連絡会）

◇45分の流れ（国語の学習より）

全員が起立して音読（個別）

学習の見通しづくり（全体）

ノートにしりとりを書く（個別）

書いたしりとりを発表（全体）

グループでしりとりをする（小集団）



言語活動や学習形態を工夫することにより、45分間学び続ける授業の実現

# 議題2 令和5年度の取組状況について

## (1) 各小学校区の取組み

### 堀津小学校区（幼保小連絡会）

#### ◇児童についての情報交流

- ・**児童一人一人**について現在の小学校での様子や、園での様子を伝え合う。
- ・**要配慮児童への対応の仕方**について話し合う。



#### ◇今後の見通しの共有

- ・職員向け**校長だより**の配付（幼保小連携について）
- ・小学校区における**幼保小連携計画**の検討

# 議題2 令和5年度の取組状況について

## (2) 市の取組み

### 園実習

7月31日 …小学校教員が保育園、認定こども園において実習を行う。

### 第1回幼保小連携担当者会

8月 4日 … ①市の幼保小連携の方向の共有  
②小学校区における幼保小連携のあり方  
③小学校区で育成したい資質・能力

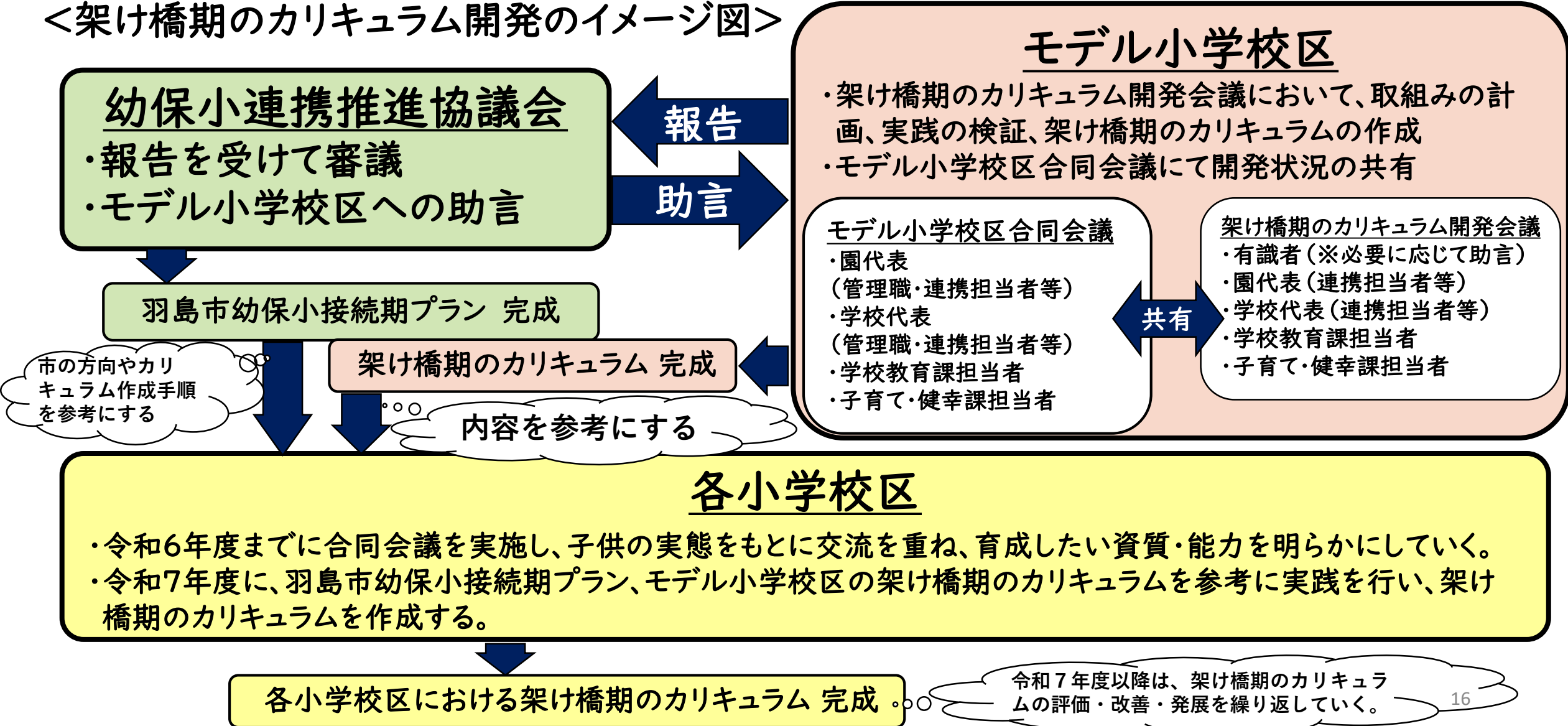
第2回幼保小連携に関わる調査 12月に実施

# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (1) 開発会議、園・小学校、自治体の役割

資料4

<架け橋期のカリキュラム開発のイメージ図>





# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

資料5

## (1) 開発会議、園・小学校、自治体の役割

### 2-(6) 進め方のイメージ

注：基盤づくりから改善・発展サイクルの定着に至るまでのプロセスの目安。実際には、地域の実態に応じ、各フェーズ間を行きつ戻りつしながら発展していく。

	1年目	2年目	3年目	
	フェーズ1 基盤づくり	フェーズ2 検討・開発	フェーズ3 実施・検証	
	フェーズ4 改善・発展サイクルの定着			
開発会議	<p>方針</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 架け橋期のカリキュラム開発会議における準備                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構成員の選定と目指す方向性の共有</li> <li>・ 地域の実態の把握（開発会議は自治体に設置）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 架け橋期のカリキュラム開発会議における検討・開発                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 方針の検討・決定、開発への支援</li> <li>・ 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携開始（モデル地域対象）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 架け橋期のカリキュラム開発会議による実施の検証                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実施状況の把握・検証と支援</li> <li>・ 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携推進（モデル地域対象）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム開発会議の運営                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 方針の改善・発展と支援</li> <li>・ 国による架け橋期の教育の質保障の枠組みとの連携強化（モデル地域対象）</li> </ul> </li> </ul>
園・小学校	<p>具体化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 接続を見通し、各園・小学校で教育課程編成・指導計画作成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園・小学校での活動の共有</li> <li>・ 子供の交流</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 架け橋期のカリキュラムの検討・開発                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通の視点をもとに内容の検討・開発</li> <li>・ 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の共通性の理解</li> <li>・ 子供の交流の推進</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 架け橋期のカリキュラムの実施・検証                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 園・小学校において教育課程編成・指導計画作成、実施・検証</li> <li>・ 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用</li> <li>・ 子供の交流の充実（子供の自発的な交流等）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 持続的・発展的な架け橋期のカリキュラム</li> <li>・ 人やものとの関わりを通じた学びを踏まえ、教材としての環境の活用の充実</li> <li>・ 持続的・発展的な子供の交流実施（子供の自発的な交流等）</li> </ul> </li> </ul>
実施に必要なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各園・小学校での体制                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 連携窓口の明確化</li> <li>・ 自園・自校の先生への意識啓発と参画</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼保小間の体制                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼保小の合同会議の設置</li> <li>・ 相互の教育の内容や方法に関する理解の共有</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼保小の協働実施の体制                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼保小の合同会議の充実</li> <li>・ 相互の教育の内容や方法に関する理解の深化</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 持続可能な体制                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼保小の合同会議の定着</li> <li>・ 相互の教育の内容や方法に関する理解の改善・発展</li> </ul> </li> </ul>
自治体	<p>支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 連携強化への支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の実施（幼保小合同研修等）</li> <li>・ 自治体内の関係部局との連携</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 接続に向けた支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の推進、研修教材の開発</li> <li>・ 関係機関との連携を深め、園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネート</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼保小の協働実施の支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の充実、研修教材の活用</li> <li>・ 実施上のニーズの把握と支援</li> <li>・ 園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの充実</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 持続的・発展的な取組を支える支援の定着                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の改善・発展、研修教材の改善・発展</li> <li>・ 必要な支援策の改善・発展</li> <li>・ 園・小学校と関係機関・関係団体との連携のコーディネートの改善・発展</li> </ul> </li> </ul>

○架け橋期のカリキュラムを開発する際の、**基盤づくり**（フェーズ1）を行う。

- ① 第1回開発会議
  - ・ 方向性の共有
  - ・ 構成員の選定
- ② 園・小学校
  - ・ 小学校区との連携推進
  - ・ 職員への研修
  - ・ 合同会議の実施
- ③ 自治体
  - ・ 研修の実施
  - ・ 関係部局との連携

【参考】 幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版） p.15 < R4.3.31 文部科学省 >

# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (1) 開発会議、園・小学校、自治体の役割

資料5

○実践を通して、架け橋期のカリキュラムを**検討・開発**（フェーズ2）をする。

### ① 第2回開発会議

- ・方針づくり
- ・検討・開発

### ② 園・小学校

- ・実践をもとに検証
- ・合同会議において検討・助言

### ③ 自治体

- ・市としての育成したい資質・能力の明確化



【参考】幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き（初版）p.15 < R4.3.31 文部科学省 >

# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

○第1回の架け橋期のカリキュラム開発会議において、モデル小学校区における**開発方針**を決定する。そして、開発方針をもとに各園・小学校が実践をし、架け橋期のカリキュラムとしてまとめる。

○開発方針は、**共通の視点**をもって教育・保育について実践することを明らかにする。その際、期待する子供像として**小学校区で育成したい資質・能力を共有**した上で作成することが重要である。



# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

### <架け橋期のカリキュラム開発会議>

#### 第1回(令和6年 2月)

- ・モデル小学校区の開発方針の決定
- ・4月からの小学校の実践について検討

#### 第2回(令和6年 5月)

- ・4月の小学校の実践を中心に検証
- ・今後の実践について検討

第5回協議会へ報告  
(令和6年6月)

#### 第3回(令和6年 11月)

- ・園・小学校の実践を検証
- ・架け橋期のカリキュラム(案)検討

第6回協議会へ報告  
(令和7年1月)

# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

資料6

### <共通の視点>

- ①期待する子供像
- ②遊びや学びのプロセス
- ③園で展開される活動/  
小学校の生活科を中心とした各教科の単元構成等
- ④指導上の配慮事項
- ⑤子供の交流
- ⑥家庭や地域との連携

### 3-(2) 開発会議で開発する架け橋期のカリキュラムのイメージ

○架け橋期のカリキュラムについては、幼保小の先生が協働し、共通の視点を持って教育課程や指導計画等を具体化できるよう、「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」を手掛かりとし、**育成を目指す資質・能力を視野に入れながら策定**できるよう工夫する。そして、幼保小の先生と一緒に振り返って評価し、改善・発展させていく。  
○自治体や園・小学校での工夫を促しつつ、例えば、下記のような共通の視点を整理して示すことが考えられる。

	0歳～	5歳児	小学校1年生	小学校2年生～
共通の視点として考えられる項目例		4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	
①期待する子供像				
②遊びや学びのプロセス				
③園で展開される活動/ 小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等		5歳児～小学校1年生（架け橋期。0～18歳の学びの連続性に配慮）について、 ・共通の視点から考えてみよう ・既存の5歳児4月からの教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおける5歳児のカリキュラムの位置づけについても考えてみよう） ・既存の小学校1年生の教育課程・指導計画を見直してみよう（架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラムの位置づけについても考えてみよう）		
④指導上の配慮事項	先生の関わり 子供の学びや生活を豊かにする園の環境の構成・小学校の環境づくり（※） ……			
⑤子供の交流				
⑥家庭や地域との連携				
…				

（※）以下「環境の構成・環境づくり」という。

# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

### ①期待する子供像

小学校区の職員が、お互いの教育・保育について理解を深めた上で、子供の実態をもとに、**架け橋期を通してどのような子供を育てたいか**を明確にする。

幼児教育施設

「なぜだろう」と思う心を大切にしたいな。

小学校

先生に聞く前に、自分でどんどん考えていく子供になってほしいな。

<例>

身近なことに疑問をもち、自ら考え、主体的に学ぶ子供

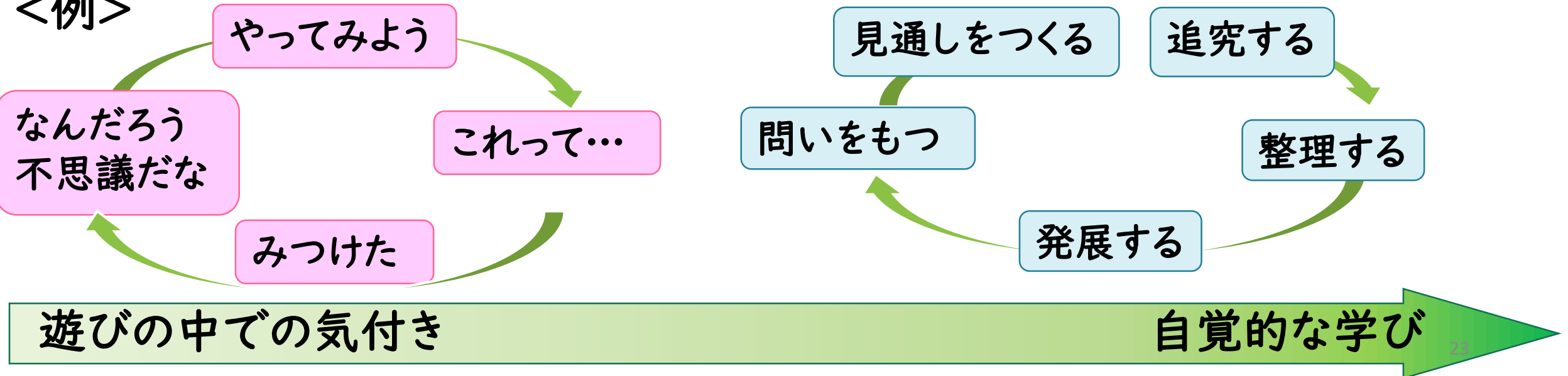
# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

### ② 学びや遊びのプロセス

「遊びの中での気づき」から、「自覚的な学び」へのプロセスを共有し、架け橋期における主体的・対話的で深い学びについて一緒に考える。

<例>



# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

③園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科の単元構成等（園で展開される活動）小学校での学習や生活を見通し、将来の学びにつながる体験を**幼児期にふさわしい形**で実現していく。

<例> 小学校教育で**課題となると予想されること**をもとに、園生活を工夫する

### 言葉を豊かにする

- ・行事を楽しみ、感情を言葉にする
- ・絵本や物語を通して、言葉に親しむ

### 自然への興味をもつ

- ・植物の栽培・昆虫の飼育
- ・お泊り保育での星空観察

### 体を動かすことを楽しむ

- ・複雑な動きが含まれる遊び
- ・様々なルールでの鬼遊び

### 情報を比較したり、取り入れたりする

- ・遊園地ごっこで、どんな乗り物があるか家族に聞いてくる
- ・どちらがよいか選択する場面設定をする

### 数や量等への興味をもつ

- ・収穫した野菜の数を数える
- ・バケツで水を運ぶ回数で、砂場のダムの大きさを比べる

遊びの中での気づき



# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

③園で展開される活動/小学校の生活科を中心とした各教科の単元構成等（小学校の生活科を中心とした各教科の単元構成等）幼児期の体験や、園での遊びや生活を踏まえ、**指導を工夫**する。

<例>

### 安心感をもたせる活動

- ・幼児期に親しんだ活動  
（折り紙 カルタ 絵本）
- ・同じ学習の繰り返しから発展  
（リズムにのって体を動かす）
- ・交流する活動

### 合科的・関連的な指導

- ・子供の思いや願いの実現
- ・生活科を中心に、つながりある  
他教科等のねらいを考える
- ・2時間続きのゆったりした学習

### 教科等を中心とした学習

- ・入学当初の学習意欲を生かす
- ・10分～15分の短い時間を活用して時間割を構成する
- ・他教科の学習内容と、生活科との関連を意識する

自覚的な学び

# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

### ④指導上の配慮事項

(先生の関わり) **子供の発達に応じて**先生の関わり方に  
変化はあるが、「子供同士の考えをつなぎ、子供とともに  
想像する」といった**共通の視点**をもつ。

<例>

意欲を引  
き上げつ  
つ、任せる

幼児同士  
の仲立ち  
をする。

疑問やヒント  
など、対話を  
通して幼児  
の考えを促す。

安心を生  
み、成長・  
自立を支  
える。

気づきを  
基に考え  
ることを促  
す。

気づきの  
質の高ま  
りを促す。

遊びの中での気づき

自覚的な学び

# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

### ④指導上の配慮事項

(環境の構成・環境づくり) 幼児教育は「環境を通して行う教育」を基本としているが、小学校教育においても児童が安心感をもち、自分の力で学校生活を行うことを支える環境づくりが必要である。

#### <例>

自分の思いの実現や遊びの発展に配慮  
(自ら、または他者とつくる世界を楽しむ)  
・複数の幼児と一緒に遊べる広い場所  
・試行錯誤できるゆったりした時間 等

自分の力で学校生活を送り、自覚的な学びを  
生み出すような環境に配慮  
・安心して活動できる環境  
・主体的に学びに向かえる環境 等

遊びの中での気づき

自覚的な学び

# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

### ⑤ 子供の交流

園児と児童が交流する場面を位置付けることで、園児は小学校での**自分の姿を描き**見通しをもったり、小学生は**自分の成長を実感**したりする。

<例>

生活科の授業  
に参加

一日入学

生活科の授業に  
園児を招待

遊びの中での気付き

自覚的な学び

# 議題3 モデル小学校区の取組みについて

## (2) 架け橋期のカリキュラム開発方針の作成

### ⑥ 家庭や地域との連携

小学校区としてどのような子供を育てたいか、そのために  
幼児教育や小学校教育で何を大切にしているのかを共有  
しておくことで、子供が安心して成長できる環境を整える。

<例>

- 園だより
- ホームページ
- 1日入学
- 学校だより
- 学級懇談会
- 学校運営協議会

・幼保小連携の様子  
・小学校区で期待する子供像と、そのための園の取組み

・幼保小連携の様子  
・小学校区で期待する子供像と、そのための小学校の取組み

遊びの中での気づき 自覚的な学び